

創立 1980年10月8日



# ROTARY CLUB OF SAKAI NORTH

第2640地区 堺北ロータリークラブ週報

事務所 〒590-0024 堺市堺区向陵中町2丁5-10 杉本ビル5-B・Tel: (072) 255-1200 番

例会日 毎週金曜日 午後0時30分

例会場 PANTARON Tel: (072) 228-3988 番 (魚太郎直通電話)

URL : <http://www.sakai-kita.jp/>

E-mail : [snrc@jasmine.ocn.ne.jp](mailto:snrc@jasmine.ocn.ne.jp)

ガバナー(第2640地区) 久保治雄(クボ ハルオ)

ガバナー事務所 URL : <http://www.rid2640g.org/kubo/>

E-mail : [kubo-2013@rid2640.org](mailto:kubo-2013@rid2640.org)

会長: 城岡陽志 幹事: 中川 澄 広報委員長: 塩谷圭一 編集者: 綿谷伸一

四つのテスト 言行はこれに照らしてから 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

## 本日の例会

2013年11月22日(金)第1592回

卓話 「省エネ推進事業 (HEMS)」

卓話者 パナソニック株式会社 内田 健様

小川電機株式会社 中村 孝文様

紹介者 辰 正博会員

今週の歌 「R-O-T-A-R-Y」

「ちいさい秋見つけた」

お客様の紹介

出席報告・会長の時間

委員会報告・幹事報告・SAA報告

## 次回の例会

2013年11月29日(金)第1593回

卓話 「テーブル会議」

議題: 未定

## 前回例会の報告

2013年11月15日(金)第1591回

卓話 「情報セキュリティについて」

卓話者 堺警察署 防犯課係長 岡本康秀様

紹介者 堀畑好秀 会員

今週の歌 「四つのテスト」「女一人」

「堺北RCの歌」

お客様の紹介

出席報告・会長の時間

委員会報告・幹事報告・SAA報告

<11月15日(金)の出席報告>

会員数(会員32名・準会員1名) 33名

出席会員 21名

出席準会員 0名

欠席会員 12名

ゲスト 2名

ビジター 0名

10月4日(金)の出席率 81.25%



2013-14年度 国際ロータリーのテーマ

ロータリーを實踐し みんなに豊かな人生を

ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES

国際ロータリー会長 ロンド・バートン(ノーマン・ロータリークラブ)

## 卓 話

### 「情報セキュリティについて」

堺警察署 防犯課係長 岡本康秀様

堺警察署防犯係の岡本でございます。

平素は、堺区の皆様が安全で安心して暮らせる街づくりのために、堺北ロータリークラブの皆様には、2年前に、阪堺電軌道の通称チン電に大型の啓発ステッカーを貼っていただき、堺区民だけでなく沿線の大阪市や高石市の方々の防犯意識の高揚に役立っております。

また、今年は堺区だけでなく堺市民の皆様のこと考えられ、大阪府で多発しているひったくりの抑止のために、ひったくり防止カバー多数作製していただき、堺市内の警察署に配布させていただきました。堺北ロータリークラブの皆様には、安全安心街づくりにご協力をいただき本当に有難うございます。

この様に皆様が防犯に関心をお持ちになられ堺の皆様のために活動されていますが、今日は皆様の事業所等で身近に起こりうる犯罪についてお話させていただきます。

現在は、情報化社会で皆様の事業所でも、お客様の個人情報や事業所の大切な秘密の情報を管理されておられます。その情報が管理されているためにお客様も安心されて、事業活動が出来ると思います。その大切なお客様の情報が、皆様が皆様の会社の従業員の方の何でもない行為から流出してしまうのです。その情報が流出してしまうと、日本だけでなく全世界に広がり、情報を回収出来なくなります。

また皆様の事業所のHPがウイルスに感染してしまうと、そのウイルスが皆様のHPから他社のHPに感染してしまい、皆様の事業所の信用が無くなる事にも繋がります。そのウイルスは目では見ることが出来ません。その見えない敵から身を守るためには、ウイルス対策ソフトは勿論ですが、日頃から細心の注意を払って頂き、ウイルス対策を万全にしたいと思っております。見えない敵は、何時も皆様を狙っていると、見えない敵はすぐ近くに潜んでいると考えていただき、万全の対策をして下さい。

また、今還付金詐欺等の振り込め詐欺が多発しています。この振り込め詐欺等を含めた特殊詐欺の被害が、昨年1年間で22億円の被害が発生しています。しかし、今年の1月から10月末までにすでに27億円弱の被害が発生しています。

「お金をお返します。」「儲かります。」

「お金を振り込んでくれ。」

との電話があれば、自分一人で判断せずに必ず

「誰かに相談する」「相手を確認する」

ことを必ずして、皆さんの大切な財産を守って下さい。

## 会長の時間



会長 城岡陽志

### 「幸せになる魔法の言葉」

生きていく中で、人間関係がうまく言っているときは、ハッピーな時期です。

でもある日突然、誤解などから人間関係に亀裂がはいることがよくあります。

先日、面白いためになる話を聞いてきました。

それは人間関係づくりにおいて、うまくいく魔法の言葉があるそうです。それは単純なことですが、

「あ、い、う、え、お、」です。

「あ→有難う！」 「い→いいねー！」 「う→うれしい！」 「え→えーほんと！うそー！」

「お→面白い！」

これだけを言っていれば、人間関係は良好に保てるそうです。そうです、人は自分に関心を持ってもらいたいのです。この「アイウエオ」は相手の話に、真剣に聞き、関心を持つてれば自然に出る言葉なんです。まさしく聞き上手。今日から実践しましょう。

この魔法の言葉を、そしていい人間関係を維持していこう。

## 委員会報告

### 広報委員会

広報委員 綿谷伸一

「ロータリーの友 11月号の御紹介」



#### (1) エバンストン便り

ヨコ組記事 P 31

K. R. ” ラビ ” ラビンドラン氏が2015-16年度RI会長ノミニーに選出されました。新しい考え方で、会員増強においても新しい風を吹き込んでくれるようで今後の言動が楽しみです。

#### (2) 放射能ゼロ米への挑戦

タテ組記事 P 4～P 8

純粋に美味しい米作りを実践してきた福島県の天栄村の農業が東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故によって土壌汚染の窮地に立たされた。放射性物質をゼロにした、安全な米を作りたい、という目標の為にデータを基にした土壌改良のテストをされている苦勞が伝わってきます。

天栄米をコンクールで賞をとるまでに育て上げたアイデアと努力で放射能ゼロの米が復活し日本一美味しい米が一日でも早く収穫できることを願います。

#### (3) 読んで面白い記事

「ロータリアンのための職業奉仕入門」

専門分析 ヨコ組み記事P37～P39

マーシーシップ創業者 ドナルド・スティーブンス氏の話では、発展途上国へ向けての医療の奉仕活動において治安の不安定な地域での病院建設よりも、必要なものを完備し最新の医療機器を積み宿泊施設やインフラをすべて備えたマーシーシップでの活動が有効であると述べています。

しかし長期ボランティアでは2年以上も船上での生活が続き、また仕事を離れ奉仕に携わるということは大変な重労働と精神力が必要でしょう。それは大儀の為に活動するという強い目的意識が大きなモチベーションであると。自身の職業奉仕について改めて考えさせられます。

### グルメの会

代表世話人 木畑 清



11月16日(土)夕方より南船場、浪速料理「へちもんや」で開催いたしました。

会員13名・奥様方6名・ゲスト5名、合計24名の参加をいただきました。世話人として心より御礼申し上げます。当日は天然ブリ、よこわ、ふぐ等々大変おいしく頂けたと思います。次回も期待してお待ち下さい。

## S A A 報 告

城岡陽志会員 堺警察署の岡本様、本日の卓話有難うございます。  
来週は中国出張で欠席します。よろしく。

嶽盛和三会員 岡本様・萩原様日頃は防犯業務御苦勞様です。  
本日は卓話有難うございます。  
寒くなりました。皆様お体に気を付けて下さい。

木畑 清会員 明日16日(土)6時30分より南船場「へちもんや」でグルメ会を行います。  
小西さんと二人でお世話致します。  
お時間のある方をご参加下さい。ご期待に応えられると思います。

米澤邦明会員 ニコニコ。

小西幹夫会員 明日グルメの会よろしくお願ひします。

塩見 守会員 明日のグルメの会に友人をつれて行きますので皆様宜しくお願ひします。

藤永 誉会員 早いもので囲碁大会・クリスマス例会1カ月前になりました。  
よろしくお願ひします。

合 計 23,000円

## 幹 事 報 告

### (1) 配布物 週報

ロータリーの友11月号

### (2) 他クラブ例会変更のお知らせ

#### ・堺東ロータリークラブ

12月17日(火)→12月14日(土)午後6時～

場所：ホテルアゴーラリージェンシー堺3F

12月31日(火)→定款第6条第1節により休会

### 「小さい秋みつけた」

誰かさんが 誰かさんが

誰さんが みつけた

ちいさい秋 小さい秋

ちいさい秋 みつけた

めかくし鬼さん 手のなる方へ

すましたお耳に かすかにしみた

よんでる口笛 もずの声

ちいさい秋 小さい秋

ちいさい秋 みつけた



## ロータリーの醍醐味を語る

米国のロータリアン、セシル・パディーヤさんがこれまで長年、ロータリーを通じて奉仕活動に携わってきた中では、心をつかまれるストーリーが稀ではありません。プロジェクトで旅した国は 70 カ国以上。心を揺さぶられるような数々の場面を目の当たりにすると、それを活動の原動力として、熟練の整備士としてのスキルを奉仕に生かしてきました。現場では凛として活動に専念する一方、帰国して我が家にもどり、活動を振り返ると涙があふれ出ることがあるといいます。

パディーヤさんがメキシコでの奉仕活動を支援してきたときのことで。

「ポリオにかかった女の子が地面をはって移動する必要がないように、ゴルフカートをプレゼントしました」

当時を思い出して、声ともならない声で話を続けるパディーヤさん。

カートの贈呈で沸く人びとの群れの外には、その女の子の父親がぼつんと立ち尽くしていました。

「その父親のところへ行って、どうしたんですかと尋ねたんです。すると彼はこう言いました。“自分の娘に与えてあげられないものを、ロータリーの皆さんが与えてくださった。自分がとても情けなくて、恥ずかしくて…”」。

パディーヤさんは手の甲で涙をぬぐい、深く息をついてから話してくれました。

現在 72 歳のパディーヤさんは、退職生活を続けて約 20 年になります。退職後は、趣味のビンテージ車を修復したり、バイク旅行に出かけるほかに、ロータリーとハビタット・フォー・ヒューマニティを通じてボランティア活動に時間を費やしてきました。我が家の一角をロータリーの記念の品々で飾るほど、ロータリーへの思い入れは人一倍。その品々の中には、ロータリーのメダル、リボン、楯が並び、またロータリーの旅行で訪れた地域を印した世界地図があります。

パディーヤさんがロータリーにかけける情熱は、そうした記念品だけでなく、ロータリー財団への支援にも表れています。何年も続けた寄付が 2011 年には累計 250,000 ドルに達し、アーチ C. クランフ・ソサエティへの入会に至りました。入会式では、ロータリー入会を誘われた当時に振り返りスピーチをしました。「上司にいわれて半ば義務のようにして入会したのですが、後になって自分の人生をこれほどまでに一転させるとは思ってもみませんでした」

### 決して裕福ではなかった子供時代

メキシコ系アメリカ人として、小さな農場を経営する家に育ったパディーヤさん。少年時代は、両親が日中に町へ出稼ぎに行く間、家畜に餌をやったり、壊れた農機具を直したりして過ごしました。「学校に通い始めると、私の洋服のつぎはぎを見て、ほかの子たちが笑うんです。それまで自分の家が貧しいとは思ってもみませんでした。お金がたくさんなくても、兄弟ともに幸せに暮らしていたんです」

その後何年も経ってロータリアンになり、メキシコでポリオの女の子の父親と話をしたとき、痛いほどに彼の気持ちが分かったのは、そうした自身の生い立ちがあったからでした。「たくさんの国を旅してきましたが、どこに行ってもいつも心に響くのは、子どもや親が私を強くハグしてくれることです。彼らを助けにきた私を放したくないかのように、強くハグしてくれるんです。奉仕活動を続けようと思うのはこのためです」

今でこそ活動熱心なパディーヤさんですが、入会して最初の 4 年間は、毎週例会で昼食をともにし、仕事の後は会員仲間と飲みに出かけるだけでした。転機が訪れたのは 70 年代後半、地区大会で、ドン・ラトリーさんに出会った時のことです。歯科医を務めるロータリアン、ラトリーさんはメキシコで歯科クリニックを開くプロジェクトを検討していました。「私がちょうどスペイン語を話せるので、お手伝いしましょうということになったんです」

### 新しいスキルを学んで

1979 年に現地を訪問するに先立って、パディーヤさんはラトリーさんから歯科助手としてのスキルを教えてもらいました。このとき学んだスキルは、パディーヤさんが後に、アフリカや各国で奉仕活動をするのに大きな威力を発揮することとなります。二人がメキシコで開設した歯科クリニックは当初、必要な設備が足りず、基本的なサービスの提供に限られていました。しかし現在は、多くのロータリークラブから支援を受け、独自のビルを構えるほどに発展しました。地元住民は無料で、さまざまな歯科サービスを受けられます。「ここまで来るには長い道のりだった」とパディーヤさん。

地元でパディーヤさんをよく知る人物の一人が第 5160 地区ガバナーのローラ・デイさんです。広大なこの地区には 71 のクラブがあり、そのすべてを訪問するのに、パディーヤさんがボランティアで運転手役を申し出ました。「何時間も車で一緒に移動するうちに、彼のことをよく知ることができた」というガバナー。「エルサルバドルでは、道を整備し橋を建設するために、泥まみれで床に寝たり、何日も着替えができなかったと聞きました。パディーヤさんはポリオ予防接種活動、フィリピンでの医療クリニックのほか、歯科アシスタントとしてもメキシコ、ネパール、アフリカを訪れています」

次に予定しているのは、2 つのチームを率いて歯科クリニックを支援するメキシコ訪問、続いてハイチでの復興支援プロジェクトと、チリへの旅行です。これほどまでにパディーヤさんを奉仕にかき立てるものとは何か、パディーヤさんが話します。「言葉ではうまく表現できないかもしれませんが、プロジェクトに出かけるたびに、そこで得られるものがあります。それは現地の子どもがくれた温かいトルティーヤ（薄焼きパン）など、シンプルなものかもしれませんが、私の心の琴線に触れる何か必ずあるんです。これを経験しない人生は、今では考えられません」